不定期刊行　　第518号　2014.08.03

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者　大西　浩
大町高等学校

## 大町高校夏山準備合宿

夏休みに入って最初の土日、我が大町高校山岳部は夏山準備合宿を行った。偶々2 年生は日曜日が合同大学説明会とのことで、主体は1年生たちとなった。今年になって入部した2年生のKをリーダーに1年生が2名と私。そこに日帰り参加の2年生が一人の合計5人で、26日扇沢から入山し、針ノ木雪渓を詰めた。大沢小屋につくと、「テントかい？今日はもしかすると、テン場が足りなくなるかもしれないよ」と言われ、そんなに混んでいるのかとびっくり。まあ、明日は信州山の日だし、夏のハイシーズンそれも当然か。出発をもう少し早くすべきだったかと思いながら、先へと進む。ピーカンの天気で、汗がだらだら落ちるが、赤石沢を過ぎて、雪渓尻から雪の上に出た瞬間の心地よさと言ったら、生徒たちからも感動の声が上がる。頭上から背後の種池まで、ぐるりと屏風のように囲まれた稜線を今日明日で全部歩くのだ。生徒たちは5月のセンターの研修会でも訪れているのだが、その時とはまた違う堅く氷化した雪に多少とまどいながらも、徐々に高度を上げていく。足をしっかり置いて歩く練習もかねているので、やや足元不如意の女子一人以外はノーアイゼンで進ませる。中高年の登山者から「アイゼンつけないの？」と目を丸くされた。ノドの手前で、追いついてきた遭対協のHさんから「若い人たちは元気だね。」と、声をかけられた。ここからは、Hさんと先になり、後になりしながら登って行った。マヤクボ沢の合流の向かいの大岩で水を補給し、しばらく進むと夏道が出てきた。融けたばかりの濡れた斜面にはショウジョウバカマが遅い春を告げている。峠までの九十九折れを登り切って峠に出ると、表・裏の銀座の山々が槍ヶ岳に向かって収斂している様がすべて見渡せた。途中何パーティか追い抜いたからだろう、幸いテン場はまだ余裕があった。手続きをして早速幕営をし、蓮華岳へと向かう。急坂を登り切ると、花崗岩の砂礫の中にコマクサが満開だ。大町高校の山岳部歌は4番まであるが、「昨日立山、今日は白馬、明日は蓮華の峰に立つ」、「南高健児は忘れはすまい、蓮華の峰のコマクサを」と蓮華が2回登場する。大町から見ると大きな尾根が手前に張り出した蓮華岳はそれだけ目立つからであろう。どこから見ても自己主張の強い蓮華も大町の山なのだ。白いコマクサも見、景色を充分堪能して、峠へと戻った。歌詞の通りのコマクサと、歌詞の通りにするには遠すぎる立山を目に収め、蓮華岳が生徒の心の中にはしっかりと刻み込まれたに違いない。

峠に戻ると、Hさんが「どうです、生徒にやらせてみませんか」とグリセードのデモンストレーション。峠の直下の雪渓は斜度といい、堅さといいグリセードにはおあつらえ向き。早速興味を示したのは、中学までジャンプ選手だったYと、現役スキー部員でもあるI。さすがに身のこなしも飲み込みも早い。ひとしきり即席の講習会をした後、日帰り参加の2年生のIが早速修得した技術を使って、スタンディンググリセードで下って行った。ピッケルもないのに、器用にバランスを取りながら下って行ったIが見えなくなるのはあっと言うまであった。あとで聞いてみると、なんと扇沢のステーション

まで、50 分で下ったとのこと。たいしたもんだ。

夜半から風が強くなった。バタバタと煽られ、寝たり起きたりしているうちに起床時刻になった。1 時間半で食事、撤収、一年生たちもだいぶ要領がわかってきて、手慣れてきた。5 時半にテン場を出発。風が強い。昨日夜の予報では午後天気が悪化するとのことだったが、前線の通過時刻、位置がだいぶ変わったようだ。針ノ木の山頂が今回の最高到達点なので、山岳部歌を歌おうとしたところで急に雨が降り始めた。カッパを着ての山岳部歌。歌っているうちに雨は顔をたたきつけるような雹に変わった。今回は引率は僕が一人。まあ、食糧、燃料もあることだし、夏休み中でもある。途中最悪ビバークしてもいいだろうとは考えた。しかし、引き返すなら今しかない。こういう時の判断基準は生徒自身のモチベーションも大きなウエィトを占めている。しかし、リーダーを始め、生徒たちは「ここまで来たら行きましょう」と意気盛んである。これならば大丈夫と先に進むことにした。

今年から 7 月第 4 週は信州山の日として、この日を中心に様々な関連イベントが実施され（現在進行中の企画もあるが・・・）た。こんな天気ではそれほど動いている人はいまいと思ったが、豈はからんや、そんな日ということもあって、山には多くの人がいた。針ノ木からの悪場を慎重に下り、スバリ、赤沢と越えていく。雨風は一向に収まる気配がなく、どちらの頂上も瞬間滞在。証拠写真だけを撮って逃げるように先を目指す。鳴沢を越えて、新越に着いたのが、10 時 30 分。動き続けている上に、身体も濡れていたので、小屋で休ませてもらい、お湯を沸かして身体を中から温め、ゆっくりした。このころから雨脚が弱まり、風も少しずつ穏やかになってきた。とはいえ、今日の行程は実質的にまだ半分が終わったところ。温まった生徒たちは元気を取り戻した。岩小屋沢の登りをもう一時間頑張ればあとは下るだけ。11:15 出発。岩小屋沢でも眺望は得られなかったが、天候は回復傾向にある。あとは基本下るだけと思うと路傍の花も心なしかいとおしく感じられる。種池山荘に着くころには青空が広がり、劔・立山の峻嶺はもちろん、端正な鹿島槍、ひときわ存在感を増した爺ヶ岳、そして今日歩いて来た縦走路上の峰々もすべてが姿を現した。

種池山荘で挨拶をし、縦走路を少し進んで鹿島槍をしっかり目に焼き付けて、下山した。昨日の I が 50 分で下ったというのが、刺激になっていたのだろうか。疲れも見せない生徒たちは、ここまで来た勢いそのままに、扇沢まで 1 時間半で下ってしまった。1 年生ながら、頼もしき生徒たち。彼らの目には昨日針の木峠で目にした烏帽子から続く野口五郎、水晶を槍を目指して歩く次の縦走のイメージが映っているのであろうか。次回の夏山縦走（13 日～16 日に予定）に向けて意義ある準備合宿だった。

## 編集子のひとりごと

昨日、長山協のジュニア登山教室が行われ、スタッフとして参加して来た。対象は小学校 3 年生から 6 年生まで。参加者は 12 名（内男児 7 名、女児 5 名）、大谷原から西股出合まで林道を歩き、そこからは地図にない道を北股本谷の雪渓まで行ってきた。キャッチフレーズは「わくわくチャレンジ教室　in 北股本谷　真夏の雪渓で雪合戦！」山岳総合センターのブログ　http://sangakusogocenter.com/blog01/　にもその様子が出ているので興味のある方はご覧ください。雪合戦するには・・・？だったが、楽しい一日だった。